

平成 26 年度山野学苑事業報告

はじめに

学校法人山野学苑は、初代校長山野愛子・山野治一総長によって昭和 9 年に創立され、今年で 80 周年の輝かしい記念すべき節目を迎えました。

山野愛子初代校長が確立した「美道」は、山野正義総長が「美容福祉」へと発展させ、さらに美容界で初めてジェロントロジー教育の普及活動を通じて地方創生・地域の活性化に貢献しています。

受け継いだ山野愛子ジェーン理事長は、デビュー 30 周年の節目を迎え、教職員に対して次の要望をされ、更なる歴史の継承と教育のチェンジを目指しています。

1. スマイルを忘れないこと。教職員自身が生き生きと輝いている学苑にしていけば、必ず学生に反映する。
2. 学生に対して、学校は仕事場という意識と態度を常に求めると共に教職員も心がけてきれいな教室で楽しく、時には厳しく教え学ぶこと。
3. マナー。きちんとしたマナーを身に付けるには、教員自身が積極的に交流すること。そして感謝の気持ちを表す「ありがとう」の言葉が自然に出てくるように。

以下、各学校の主な事業活動についてご報告します。

《短期大学》

平成 26 年度は、美容総合学科として、美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻、現代美容福祉専攻の 4 専攻、学士取得可能な専攻科芸術専攻、そして留学生を対象とした日本語教育を実施する「日本語別科」を代々木の専門学校校舎を間借りして新規に立ち上げました。

(1) 「日本語別科」の特色

留学生を対象にした日本語教育機関ですが、将来的に短大への入学を希望する留学生を獲得するために、まずは基本となる日本語力を身に付ける機関です。当初は美容系への進学を希望する学生ではなく、別科としての運営を初年度から確実にするために山野日本語学校からの学生を受け入れる形で 60 名の留学生でスタートしました。その後 10 月度の入学者も含めて、2 月現在 87 名で運営しています。

(2) 卒業後の進路

「美容デザイン専攻」

短大の特徴として就職の多様化は見られるものの美容系サロン就職が昨年に比べて増加しています。ヘアサロンとまつ毛サロンを合わせた就職は 81%、ネイルサロンが 4%、一般企業は昨年 9% でしたが、26 年度は 6% に留まりました。

「エステティック専攻」

エステサロン就職が昨年 91% から 26 年度は 80% に、一般企業への就職は 7%、

進学を含めたその他の進路が12%となって、エステ専攻も就職多様化の様相でした。

「国際美容コミュニケーション専攻」

化粧品関連を中心にアパレルなどの一般企業が昨年の55%から43%に減少した代わりに美容系サロンが27%から36%に増加しました。福祉関連が7%、進学が14%とこちらも幅広い進路が見られました。

「現代美容福祉専攻」

福祉施設への就職が50%、進学が50%でした。

(3)キャリアサポート

①ゼミナール

4年制大学で開講されるゼミナールとは専門分野に特化した内容を扱うものですが、短大では、キャリア支援や人間教育に柱を置いています。

短大独自のこの「ゼミナール」では、ホスピタリティ能力、コミュニケーション力等の社会人基礎力の育成を柱とし、少人数制の人間教育、キャリア教育をさらに充実させるべく取り組んできました。

②インターンシップ

ヘアサロン、エステサロン、ネイルサロン、ブライダル企業、一般企業など就職の多様化を意識できるよう、協力企業の開拓を進めてまいりました。1年次の夏と2年への進級直前の3月、2週間から1ヶ月ほどのインターンシップで現場力を体感すると同時に社会人としての意識付けをねらいます。制度をスタートさせた23年度は全体で35社、24年度は42社、25年度が75社、そして26年度は86社となり多くの学生に現場の体験の場を作ってきました。

③キャリア支援センター

キャリア支援センターは、ゼミ担当教諭と密接な連携を図りながら、就職先の開拓、インターンシップ先の開拓も進めて提携先を増やし、学生にとって有効でかつホットな情報の提供に努めると同時に企業説明会等を実施しています。

(4)課外活動

美容という特徴を活かした地域活動、地域貢献等の活動は、社会で高く評価されてきました。学生ボランティア活動の積極的な参加をはじめ、教員としてはボランティアの引率・指導の他に、市民講座における各種講演や、化粧法の講習会、研修などを可能な限り実践してきました。

①地域密着型の活動

八王子まつり、民生委員会、いちよう塾公開講座、柚木フラワーフェスティバル、学生天国、など。

②グローバルな取り組み

アメリカンスクールインジャパン、Tokyo International Players、西町インターナショナルスクールなどでのヘアメイク、着付け、お茶体験、海外からの短期美容技術研修

③施設への訪問

介護施設等へ訪問し、ネイル、ハンドマッサージ、メイク等の施術。

④その他

山野グループとの連携の強化として、グループ企業社員対象のおもてなし研修、美容技術研修

(5)学生募集

オープンキャンパスは年間25回実施、その他として授業見学会、サマースクール

等、主に高校生を対象とした大学を肌で感じていただくイベントを開催。
昨年（26年度4月入学者）が171名の入学者でしたが、今年（27年度4月入学者）は237名の新年度入学者となりました。

この中には、短大の留学生は卒業後の就労について一般企業へも就職が可能なことから、美容師資格を目指さない国際美容コミュニケーション専攻に留学生の受け入れを決め、募集活動を実施したところ、現在33名の入学者も含まれています。これは、通常2年間のカリキュラムで修学するところを最大在籍出来る4年間をフルに使った長期履修制度を利用して実質的に4年コースとしての募集として実施したものです。（33名は年間のカウントとして0.5人分と計算しますので、16名として237名に含めています。）

なお、別科の新設、4年間の長期履修者受け入れといった新たな戦略を進めたことで、初年度としての26年度は諸経費が増加することとなりました。

《美容専門学校》

山野美容専門学校は、昭和9年に山野美容講習所として創設されました。以来80年間にわたり初代山野愛子先生が提唱した美道を基本理念として、美容界のため豊かな発想と美的感覚を備えた美容師の養成に努めてきました。近年、美に対する個人の意識が多様化し、また、社会の変革に伴って美容師に対する要望も高度化してきました。特に、これからの高齢社会においては、美容福祉の重要性を自覚し、福祉についても基本的な知識・技術を学び、人のため癒しの気持ちを施すことができる思いやりと愛の心を備えた美容師を養成することが望まれます。このため、アメリカの南カリフォルニア大学と提携して、日本では東京大学と本校だけでしか学べない学際的学問であるジェロントロジー教育をスカイキャンパスで学んでいます。

このような基本的な考え方を具現化した主要な取り組みは次のとおりです。

(1) 教員の教育力の向上

グローバル化された美容業界で活躍できる美容師を養成するためには、教員自らの知識・技術・指導力の向上が不可欠です。そのため、適宜、教員研修を行い各自のスキルアップ、ティーチングスキルアップを目指しています。

*平成26年8月 全国理容師美容師養成施設教職員研修会参加（大阪・5名）

*平成26年11月 東京地区理容師美容師養成施設教職員研修会（熱海・4名）

*平成26年12月 年末教員研修（校内・4日間）

*平成27年2月 年始教員研修（校内・1日間）

・国家試験課題 研修（校内）

*その他、コース・チームごとに研修を行っています。

(2) 委員会制度の創設

教学の方針・企画・立案などを審議する機関として、委員会制度を組織化し、教職員の職務の効率化と共有化を図りました。

(3) カリキュラムの改善

2年間という短い時間の中で学生のビジョンを形にしていくためのカリキュラムとして、基礎的な技術を学ぶ基礎プロコース、プロの現場にも役立つ技術や意識、

対応力を身につけていくテクニカルプロセス、そして国家試験の全員合格を目指しています。

「この授業は今の自分に必要ない」、又は、「自分が目指しているプロに近づけない」などの学生にストレスをかけない対策として、学生自身が興味のある科目を選べるカリキュラムとしました。

① カリキュラム You（専門課程）

プログラムを学生が自分で決断し、選択する。このカリキュラムの特徴をさらに進化させました。これにより185通りの選択ができるようになりました。また学生からの授業評価により授業改善をするシステムとしました。

平成26年度から本格的に稼働させる「精神美」の授業導入に向けて、担当講師の選定や授業方法等を検討しました。特別課目の演習として、1年生1学期に20時間を行います。

* 基礎プロ2、4つのプログラムから2つ選択 → 5つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

* テクニカルプロ、6つのプログラムから3つ選択 → 7つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

② カリキュラム LIVE（高等課程）

高等課独自のカリキュラムとしました。学生はそれぞれのサロンの情熱を感じながら受講しています。なお、学生の授業評価の意見も参考に、担当サロンや担当講師の入れ替えを行い、質の向上を図っています。

* 現場で活躍しているトップスタイリストが実習授業を受け持つ。

* 20以上のトップサロンが授業を担当した。

* 2年間の実習時間の35%がサロン授業とした。

* 現場の雰囲気を感じられる授業を行った。

(4) 学生サービスの向上

① 環境の整備

学生生活の中で気付いた不満や理不尽な出来事、また、こうしたらもっと良くなるといったアイデアなどを聞くため、ご意見箱を設置し、投書を受理したら速やかに事務局長が真摯に回答する体制を整えその対応に当たりました。

② キャリア支援

就職指導については、伝統と21万人の卒業生を世界の美容界へ送り込んだ実績によって、卒業生数を大幅に上回る900社9,000人の求人数がありました。また、カリキュラムに沿った新たな企業等の開拓にも取り組んでいます。キャリア支援センターの書棚には、地域別に分類された「求人票」、サロン紹介のパンフレットが並び、インターネット用のパソコンを備えて、情報の収集、説明会等への参加登録を実施しています。

③ 人権の尊重

セクハラ・パワハラについては、学生・教員・職員が個人として尊重され、お互いの信頼のもとに教学に専念できる環境を作り、これを維持していくことを重要と考え「セクハラ防止等に関する規定」を制定し、いかなるセクハラ・パワハラも黙認されたり、見過ごされたりすることがないように取り組みました。

④ 社会人基礎力

学生には美容師として社会に出て活躍できる美容技術の基礎力とコミュニケーション能力やマナーを身に付け、教養を高め豊かな感性を磨いて、新しい時代

のリーダーを目指して誇りと希望を胸に意義ある学生生活を送ることができるようにサポートをしました。

(5) 卒業生(校友会)とのネットワークの構築

昭和9年に創設され、80年間に及ぶ教育で21万人の卒業生が世界の美容界で活躍しています。卒業生への各種サービスの一環として、学校のホームページにイベント等の情報の提供や就職先としての協力依頼等、また、卒業生相互の絆を更に強力なものにするためのネットワークの拡充に努力しました。

(6) 経営基盤の強化

少子化・価値観の多様化等による入学者の激減により、概算において難しい状況に直面しましたが、迅速な対応で基盤的経費を確保すると共に震災特別学費支援制度を継続して、被災された方で学力優秀・品行方正の希望と素養のある生徒に対して、学費の免除を行う等学業に専念できる環境を整えました。

《医療専門学校》

1) 教職員体制の刷新を図ったが、新入生募集の不振、3年生成績不良などが表面化した際の対策指示が遅れるなど、危機管理体制が不十分であった。

「27年度対策」

- ティナ校長の下、中原新副校長、近藤新事務局長による「入学定員確保」と「新卒者国家試験合格率UP」を主に目指す新体制を発足させるとともに、国試対策教員2名を新規採用する。(旧教員2名、旧事務員3名減)
- 教務については従来通り行い、問題が生じた場合は教職員会議(毎月第2水曜日)で審議、了承の上で解決を図る。なお、効果があると思われた対策は継続する。
- 従来は社会人対象(無資格の治療技術者)の新入生募集が主であったが、今後は高校訪問や指定校推薦入試などを導入し、主に高校3年生対象の募集活動に変更する。

2) 国家試験受験に対するモチベーションを十分に上げる事が出来ず、本学の合格予想率(新卒で77%—81%)を下回り、26年度も64.2%であり、全国ワースト7であった。

「27年度対策」

- 不合格者のうち、合格点まで5点足らずの者が半数以上であり、10点以上の差がある者(本来ならば留年生)は2名ほどであった。今後は特に、成績下位者に対する国試受験対策と心構え(モチベーション)の変革を重点的に実施する。
- 国試合格率を上げることが入学者数増加に不可欠であることから、新体制では国試合格率UPを第1目標に掲げる。

3) 既卒業生(国試不合格者)対策を立て国家試験に臨ませたが、結果的には対策は効果なく、既卒者の合格率も10%と低かった。

「27年度対策」

- 卒後は就職のために学校に通学し難い者が多いが、消息が判っている者に対しては本学との連絡を一層密にし、有料でも、しっかりした国試受験指導体制を確立する。（3年後期の受験対策授業を受講させるなど。）
- 4) カリキュラムや時間割の改定により、3年生は卒業式後にも授業を行わねばならなくなった。早急な再改定を必要とする。
「27年度対策」
 - 28年度からカリキュラムを再改定（27年9月中に役所へ提出）して、卒業式後の授業はなくす。
- 5) 「美容柔整」教育を種々実施したが、概念の具体化が十分でなく、「美容柔整」に関する関心も低い。意識の向上に対する明確な対策を必要とする。
「27年度対策」
 - 美道五原則のうちの「精神美」、「健康美」に重点を置いた美容教育と「ジェロントロジー」（内容の8割が医学・医療・福祉）教育を修め、ホスピタリティー精神に富み、国民のQOL改善に努める柔道整復師養成教育を「美容柔整」教育として推進する。
- 6) 朝の「あいさつ運動」は実施されたが、美容専門学校生と一緒にあったため、医専生個人に対する十分な指導（退学者防止対策など）が行いにくい問題があり、改善が必要である。
「27年度対策」
 - 「あいさつ運動」は退学者減少の効果があることは明確なので、単に「おはようございます」の挨拶言葉だけでなく、個人に対して簡単な声掛けを行うように、7Fエレベーターホールで医専独自で毎朝登校時に実施するように変更する。
- 7) 職業実践専門課程の認定申請はなされなかった。
「27年度対策」
 - 入学定員が確保され、新卒者の柔道整復師国家試験合格率が全国平均以上を達成したときに申請を予定している。申請準備はしておく。
- 8) 職業実践専門課程の認定申請はなされなかった。
「27年度対策」
 - 入学定員が確保され、新卒者柔道整復師国家試験合格率全国平均以上を達成したときに申請を予定している。申請準備はしておく。
- 9) PCによるUFC・山野ジェロントロジー・オンラインコース教育は順調に実施された。
- 10) 就職については、特に問題はなかった。

その他

27年度は入学者数減少に見合った経費節減に努める。当初予算の3割減を目標とする施策を積極的に工夫し実施する

- 専任教員と本学卒の若手新任非常勤講師による講義時間を増やし、高額な非常勤講師の削減により、経費の削減に努める。
- 費用対効果が悪いメディア媒体による募集を減らし、教員による高校訪問を増やし、経費を削減する。
- モバイルPCによる国試対策用サーバー保守代の停止や入学者数減少に見合うルーター数の減少など、モバイルPC用経費を節約する。
- 全ての経費を入学者数減少に見合うように見直し、経費削減に努める。
- 図書館必要雑誌数の不足分も教員の学会学術雑誌の寄付などで対応する。
- 入学者募集業務などで美容専門学校と連携できる部分については協力をお願いするなど、経費軽減に努める。

《日本語学校》

1. 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

(2) 教職員数（昨年度と変更なし）

	専任	非常勤
教員	8人	24人
職員	2人	2人

(3) 生徒数（下段は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	82人 (126人)	82% (126%)
大学進学準備教育1年半コース	240人 (190人)	218% (173%)
日本語一般1年コース	21人 (24人)	21% (24%)
計	343人 (340人)	111% (110%)

(4) 生徒数（地域別、下段は昨年）

中国	韓国	ベトナム	ネパール	他	計
55% (55%)	12% (9%)	19% (28%)	10% —	4% (8%)	100%

2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般

1年コースを設置している。

日本語能力試験(N2以上)の状況(日本語)

	5月	11月	計
受験者数	47人	40人	87人
認定者数	26人	21人	47人

進学状況 () カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
4人(6)	24人(17)	29人(11)	69人(54)

※ 主な進学先

大学院：筑波大学、大東文化大学、高千穂大学

大 学：東京外語大学、中央大学、専修大学、中央学院大学、目白大学、武蔵野大学、尚美学園大学、東京国際大学、東京福祉大学、麗澤大学、足利工業大学、東京工芸大学、デジタルハリウッド大学、

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校、山野医療専門学校と積極的に交流を行った。

山野美容芸術短期大学での留学生交流会に参加し、先輩留学生から見た、日本の文化や風習を知った。

また、山野美容専門学校、山野医療専門学校とは合同の学苑祭、ハッピーランチを行うなど、直接、日本人との共同の作業を行うことで日本人に対する理解を深めた。

- (2) 学生募集においては、非漢字圏の選考基準を厳しくし入学者数を減らし、代わりに中国の学生を増やしたことにより、中国学生の比率が50%を超えることとなった。学生募集におけるリスク分散の意味で問題があり、来年度以降の課題となった。